

市政に関する一般質問

子育て支援行政

出産祝金・育児サポート制度の現状と今後の取り組みについて



蒼政会 佐久間治行

問 人口減少や移住定住に取り組み自治体では、出産祝金の支給や、出産間もない時期の育児支援として、の買い物支援等を実施するなど、出産から子育て時期を通じて支援の実施例が見られる。本市でも是非実施してもらいたい。このように取り組みの現状と検討状況について伺う。

答 現在、本市では実施していない。本市における導入については、新たな財政負担が生じることから、実施済の自治体における導入の背景、効果等について情報収集を行い、他の施策も含め総合的に研究していきたい。

また、育児負担軽減の支援については、出産直後の母親の不安軽減を目的とした宿泊型産後ケア事業を東千葉メディカルセンターとともに検討しており、今後は家事支援を提供する訪問型産後ケア事業の実施も研究していきたい。

子育て支援行政

高齢者の子育て支援活動について



蒼政会 中村美恵

問 高齢者による子育て支援の特長として、経験豊富な高齢者による地域の親子への支援や、高齢者の健康増進及び精神的充実という面がある。次世代育成の支援者として地域高齢者の活用が期待されており、福岡県では成人の方や定年を迎えた方、年配の方々にボランティアを視野に入れた二週間などの二定期間の子育てに関する研修の機会を設け、その研修を受けた方をボランティアとして活用する取り組みが紹介されている。児童館、あるいは市として、そうしたボランティアを視野に入れた一定期間の子育てに関する研修について、現在市が直接設けているものはないか、このような研修は有効なものがあるか認識している。東千葉市から通える範囲でそうした研修の機会があった際には、市の広報などで紹介していきたい。

答 ボランティアを視野に入れた一定期間の子育てに関する研修については、現在市が直接設けているものはないが、このような研修は有効なものがあると認識している。東千葉市から通える範囲でそうした研修の機会があった際には、市の広報などで紹介していきたい。

農業振興行政

農業活性化に向けた支援、連携等について



蒼政会 宮沢敬人

問 本市の農業を今後とも発展させていくためには、東千葉市農業振興会における各部門への支援及び市内の農業関係団体農業委員、農地利用最適化推進委員や農協等との更なる連携等を図っていくことが必要であると思うが、当局の考えは。

答 本市の農業を今後とも発展させていくためには、東千葉市農業振興会では、研修や視察、農業技術や経営向上に繋がる取り組みを行っており、市としても引き続き必要支援を行っていきたく考えている。

また、農業委員や農地利用最適化推進委員、地域の中心的な担い手との連携は、耕作放棄地の発生防止や農地集積に繋がり、また、千葉県の普及指導員や山武郡市農業協同組合においては、農業用施設や栽培等の技術的助言をいただくなど、更なる連携を図ることで本市の農業活性化に繋がるものと考えている。

医療行政

東千葉メディカルセンターの第3期中期計画の提案延期について



新生みらい 石崎公一

問 東千葉M.C.の第3期中期計画を12月定例会に提案できなかったことに対する市長としての責任をどう考えているか。

答 12月定例会市議会への提案を延期することとなった理由としては、東千葉M.C.の計画と実績の乖離が大きな要因となっている。

これまで資金面において、計画と現実との乖離が生じた場合には、設立団体及び千葉県より、それぞれが開院から10年間に負担する額の枠組みの中で追加支援を行って

一般行政

市長公約の進捗状況、市長の進退について



蒼政会 宮山 博

問 この4年間の市長公約の最優先課題である東千葉M.C.については、当初の計画から運営・財政ともに大きく乖離が生じ、第3期中期計画も、手直し中ということから未だに説明されていない。これらの状況を踏まえ、市長の任期は残すところ4ヶ月余りで来年4月に市長選挙が予定されているが、東千葉市長選挙への出馬をするのか、進退について伺う。

答 出産祝金については、定住促進や多子世帯の負担軽減のための施策として、独自に導入している自治体があることは聞いていますが、きるものではないと考えている。

これまでの選挙において、自分自身がやることに大義名分があるのかどうか、まず第一に考えてきた。現在、最大の懸案である東千葉M.C.の経営の安定化については、11月に検討会議を立ち上げ、方向性を出すこととなっている。さまざまな意見があるが、任期内に全力をあげてなすべきことをなした上で、私が新たに東千葉市を二分するような戦いに臨む大義はないと現在考えている。

移住定住促進行政

民間活力による保育受け皿の拡大について



蒼政会 前嶋里奈

問 これからますます女性の社会進出が進むことなどから、保育の需要が高まる。本市に民間活力による新たな保育所開設の計画があると聞いていますが、どのような計画か。

答 平成29年8月、市に対し民間事業者から、0歳児から5歳児までを受け入れる定員105名の保育所の建設を希望する事業計画書が提出された。

現段階の計画では、設置予定場所を東千葉市八坂台とし、開設時期は平成31年4月と予定されている。

共働き世帯の増加や生活様式の変化などに伴い、保育需要が高まっている。そのため、保育施設には毎年多くの入所申し込みがあるが、0歳から2歳までの乳児を中心に待機児童が発生している状況である。

喫緊の対策が求められている中で、市としては、ニーズの多い低年齢児の保育の受入れ先として、この計画を支援し、安心して子育てができる街を構築したいと考えている。

医療行政

東千葉メディカルセンターの経営問題について



新生みらい 前嶋靖英

問 千葉大の「業務報告書」では患者数が少ない、負担金や人件費、経費、材料費も高すぎる等、厳しい指摘がなされているが、「目標案」ではこれらの問題点についての言及が全く不十分である。

現在、これまでの計画と実績の乖離について分析・検証作業を進めており、今後の位置づけについても協議の対象となると判断している。

また、患者に不親切な医師がまたいるが、高度医療や三次救急医療に特化した位置づけが間違っているのではないか、当局の見解を伺う。

なお、今年度約20億円の赤字が予測されるが、不足分の約1.4億円の補填をどのように考えているのか。

答 設立団体は中期目標を定め、法人はその目標を達成するための中期計画を策定し、その中で具体的な数値目標も示されるものである。

現在、これまでの計画と実績の乖離について分析・検証作業を進めており、今後の位置づけについても協議の対象となると判断している。

また、患者に不親切な医師がまたいるが、高度医療や三次救急医療に特化した位置づけが間違っているのではないか、当局の見解を伺う。

なお、今年度約20億円の赤字が予測されるが、不足分の約1.4億円の補填をどのように考えているのか。

教育行政

グリーンベルトの通学路への設置について



新生みらい 土肥紀英

問 県立東金商業高校に向かう国道の路側帯にグリーンベルトが設置されているが、どのような経緯で設置されたのか。また、市内の通学路に設置し、児童・生徒の安全確保を図っていく考えはないか。

答 東金商業高校に向かう国道については、平成24年に実施した通学路緊急合同点検において、道幅が狭く、歩道がないことから、東小学校から改善要望があり、道路管